

# 第73回しずない農業協同組合通常総会

## 全6議案原案通り可決される



4月14日、新ひだか町公民館において「第73回しずない農業協同組合通常総会」が開催されました。今年度の総会につきましては、昨年度から引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、原則として書面での議決に協力を戴き、来賓各位をお

招きせず開催致しました。なお、会場につきましてはいつも利用している公民館1階大会議室が新型コロナウイルス感染症対策のワクチン接種会場となっていたため、2階の大集会室を利用させていただきました。

冒頭では、片岡博代表理事組合長より「本総会につきましては、皆様もご存知の通り、昨年から発生しました新型コロナウイルス感染症の終息が依然と見えない状況にあり、JAGグループとしても、感染拡大防止の観点から組合員皆様のご協力のもと、また、来賓各位のご理解によりまして本総会を開催させていただきました。

総会資料など、事前の配布の上でのご理解、また、事前の職員からの丁寧な説明をさせて頂き、本総会に臨みたいと思っております、どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年1月に信用事業を譲渡し、専門農協として出発してちょうど1年が経ちました。組合員の皆様をはじめ、利用者の皆様には、何とか混乱なく本日まで事業運営をして参りま

した。組合員の皆様には心から感謝申し上げます。

一般農業情勢ですが、国際的にはTPP11、日EU・EPAを含め、積極的な海外市場の拡大に取り組んでおり、また、政府は更なる農業者の生産基盤と輸出力強化に向けた対策として、令和3年度予算に盛り込んでおりますが、新型コロナウイルス対策を含めて今後もJAGグループとして、政府が万全な対策を講じるよう、動向を注視して参ります。

また、JAGグループ北海道は、自己改革を中心に、自立ある経営と農業者の所得向上に向けた取り組みと、多様な担い手の確保育成を引き続き強化していくとのことです。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、海外往来制限、国内の緊急事態宣言発令と、今まで経験したことのない状況が続き、インバウンドにおける外食産業をはじめとする農産物消費が家庭消費へと移行し、日本経済の停滞から販売動向が大変懸念されました。

このような状況の中で、当JAの各作目は大きな気象災害も無く、主力である特産のミニトマト「太陽の瞳」が高温障害を受けましたが、8億3,200万円と、計画対比12%減となりました。

黒毛和牛は、1年間を通じて市場動向に大きく影響を受けましたが、971頭で6億1,900万円とほぼ計画通りに推移し、酪農は乳価が安定しており、3億6,400万円となり、これらも計画通りとなっております。

また、稲作は、作況106の良でしたが、万馬券をはじめ、米の需要動向が懸念され、販売は約7,200万円と計画比で96%にとどまりました。

これら、当JAの農畜産物の販売合計は全体で20億7,600万円と、ほぼ計画通りですが、令和元年に比較すると、2億6,400万円の減少となっております。

これは、やはりコロナ禍によることの消費の減退と夏の高温障害による事が大きな要因だったと判断して良いのではないかと思います。当JAとしても、この期間中は、積極的に政府が実施した関連事業に取り組み、組合員対応に当たりました。

当町の基幹産業である軽種馬は、中央・地方競馬共に、馬券のネット販売が好調により、馬主の購買意欲も高まり、静内産馬の市場売却率は77%で、販売額税込み441頭で、40億3,000万円と、昨年より14頭多く3億円増となる好調な結果